

青梅商工会議所 新体制で25期スタート



任期満了に伴う役員改選で25期の役員に就任した中村会頭(中央)と副会頭の岩浪さん、林さん、菊池さん、清水さん(左から)

青梅商工会議所の第190回臨時議員総会が10月31日、同会議所で行われ、第25期会頭に青梅ガス社長の中村洋介氏(64)が選任された。2期6年務めた小澤順一郎前会頭(小澤酒造会長)からバトンを引き継ぎ、小澤前会頭は名誉会頭に就いた。

工業を起点に地域経済に好循環を

このたび青梅商工会議所の会頭に就任した中村洋介です。これまで副会頭を務めてきましたが、会頭になると対外的なお付き合いが増え、行事や書類の押印など会議所の仕事も多くなりました。幸い今年から自社(青梅ガス)で申請・承認作業を電子化したのでリモート対応が可能となり、なんとか会議所の仕事と両立できています。電子化への改革は会議所でもやらなければと感じた次第です。さて、青梅商工会議所として地域経済をどのように引っ張っていくのかという話です。数年前、会議所の中期計画を作った際、政府の統計をもとに地域経済のメカニズムを把握しました。分かったのは、地域での稼ぎ頭は「電子部品・デバイス(半導体産業)」と「汎用・生産用・業務用機械(半導体製造装置の部品産業)」であること。この2分野の労働生産性は全国平均の2倍以上。域外から獲得している所得の60%を占め、雇用者所得の22%を賄っています。労働生産性の高いこの2つの産業を振興して地域外から稼ぐ所得を増やし、稼いだ所得を漏れなく地域住民に分配。地域内で惜しみなく使ってもらうことで地域経済を好循環に導き、地域住民の所得を向上させる——これが商工会議所の目指すところだ

中村会頭就任インタビュー



中村会頭

日本の平均賃金は30年も横ばいが続いていますが、私が社会に出た1980年代は自動車や半導体が外貨を稼ぎ、それが国内を循環。あらゆる産業分野に波及して、右肩上がりに賃金が上がった時代です。余分なお金が土地の投資に流れ、バブル崩壊という破綻を招いてしまいました。が、みんなが積極的にお金を使い、回り回って自分の給料も上がるからまた使います。このお金の循環を再現しようという、「バブル期と今では成長率が違う」との指摘があります。では成長率と何かが。日本商工会議所の小林健会頭によると、成長率は希望だといいますが、地域に外貨を稼げる優れた産業があることを知らせ、希望を示していくことも私の仕事のひとつかもしれません。(談)

70周年記念式典盛大に 猿田彦珈琲社長の講演も



「他人に良いことをすると良いものが返ってくる」と経営哲学を語る大塚社長

青梅商工会議所創立70周年記念式典が11月25日、青梅市野上町の霞共益会館で開かれ、来賓と会員ら合わせて160人が出席した。同商工会議所は1952(昭和27)年11月26日、西多摩を管轄エリアとし、都内で4番目の商工会議所として誕生した。その後、管内の市町村が商工会を設立して独立したため、青梅市と奥多摩町のみを管轄するようになった。式典の冒頭、中村洋介会頭は「歴代会頭をはじめ役員、各位の各ご努力と各方面から格別なご指導を賜り、今日までこの経緯などを踏まえ、自身の会社、コーヒー豆を栽培する農家、客の3者がともに幸せになる『三方よし』の経営」について熱弁を振った。講演を聞いた会員からは「猿田彦」の店名の由来や、創業時の思いや哲学をどのように従業員と共有しているかといった質問が続いた。会場では昨年の「COFFEE国際品評会」で1位を獲得したエチオピア産豆の浅煎りコーヒーが振る舞われた。

CREANS MAERD 株式会社クレアンスメアード

清水燃料株式会社 「いつもの暮らし」を心地よく、快適にするお手伝い。

OMEGAS

澤乃井

BUSYU 武州工業株式会社

岩浪建設 人のため 社会のために

TCN 多摩ケーブルネットワーク

祝 青梅商工会議所創立70周年